

認定NPO法人マドレボニータ 2017年度 年次報告書

2017(H29)年10月-2018(H30)年9月



2018年3月18日
NPO法人化10周年感謝イベント
『Madre Bonita DAY 2018』にて
(撮影：太田洋芳)

《目次》	ページ
・ 代表よりご挨拶	1
・ 2017年度のおもな出来事	2
・ 中期経営計画—重要指標	3-5
・ 教室事業	6-11
・ 養成事業	12-13
・ 研究開発事業	14-17
・ 会員事業	18
・ マドレ基金	19-22
・ 広報 メディア掲載実績	23
・ 財務状況	24-30
・ ご寄付のお願い	31

代表よりご挨拶

おかげさまで、2018年10月より認定NPO法人マドレボニータは12期目に入りました。12月には東京都のNPO法人の所轄庁である都庁に事業報告書ほか必要書類を提出しました。今年は認定NPO法人になってから初めての決算ということで、提出する書類もほんとうに膨大です。今回提出した書類には「すべての母に産後ケア」から「すべての家族に産後ケア」に方針を拡大して活動を推進していくことを明記しました。産前・産後を起点とした問題は、女性だけの問題ではない。というだけでなく、産前・産後という大きな「移行期」を、家族で協力して乗り切ることによって、パートナーシップの絆が強まり、より豊かな人生を送る契機にもなるという証拠をたくさん見てきたからです。

11月の総会では、オンラインも含めて40人もの会員さんが参加してくれました。書面評決、委任状を含めると100人以上がこの総会にコミットしたことになります。このように「議決権」を持つ会員が100人以上いるNPOというのは実は珍しく、団体が提供するサービスを享受するだけでなく、自分にも何かできるのではないかとリソースを持ちより、団体の運営に関心を持って関わってくれる会員さんが100人以上いるというのは、マドレボニータが市民社会を体現するためのプラットフォームであることのあらわれでもあります。「産後ケア教室」という標準化されたプログラムを全国各地で実施できているのも、その土台となる「法人」がこのように真面目にしっかりと運営されているからでもあります。この年次報告書で、それぞれの事業部から、詳細な報告がございます。是非目を通していただき、引き続き応援していただければ幸いです。新しいインストラクターを迎えたり新しい事業が始まったり、ワクワクする兆しがいっぱいです。



**NPO法人マドレボニータ
代表理事 吉岡マコ**

10周年イベントにサプライズで
登場した20歳の息子と

〔事業報告〕 2017年度のおもな出来事



認定NPO法人化

2017年11月16日付にて東京都より認定NPO法人として正式に認められました。マドレボニータへのご寄付は寄付金控除の対象となりました。



NPO法人化10周年

2018年3月17日に「法人化10周年感謝イベント『Madre Bonita DAY 2018～マドレボニータのこれまでとこれから』を開催しました。



コミュニティの力

NPO法人化10周年企画『MadreEXPO2008-2018』を開催。全国各地で会員の皆さまによるイベントが行われました。



クラウドファンディング

Readyforにて『マドレキャラバン 未来のインストラクター発掘の旅』実施。たくさんの方にご支援いただき目標額を達成することができました。



チャリティアイテム販売

チャリティブランド「JAMMIN」と2回目のコラボ。10周年感謝イベントではインストラクターとスタッフによるファッションショーも開催しました。



インストラクター養成

2017年度は4名のボールエクササイズ指導士がデビュー。産後セルフケアインストラクター11期生も2018年11月・12月にデビューしました。

中期経営計画—重要指標

①受講者数

目標20,000人⇒実績7,978人

受講者数は昨年度を下回り、7,978人となりました。

産後ケア教室の開催数、満席率は去年に比べて増えたものの、単発講座の受講者数が減り単年度の目標にも届かずでした。詳細については、この後の教室事業をご覧ください。



20,000

中期経営計画での目標：20,000人/年

9,359

2017年度計画では9,359人/年

7,978

中期経営計画—重要指標

②インストラクター数

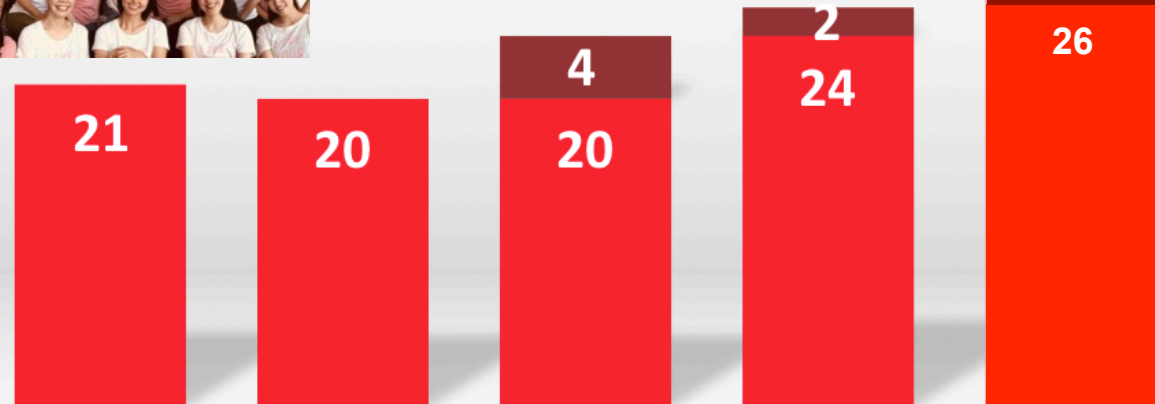
目標35人(SCI:27, BEI:8) ⇒ 実績32人(SCI:26, BEI:6)

単年度目標の31名を達成。中期経営計画での35名にはわずかに届きませんでした。

クラウドファンディングのご支援により、養成のための種まきであるキャラバンが実現するので次年度以降も乞うご期待！



※ SCI：産後セルフケアインストラクター
BEI：ボールエクササイズ指導士



中期経営計画での
目標：計35名

2017年度計画ではBE指導士3名、
産後SCI28名の計
31名が目標

2013年度
(平成25年度)

2014年度
(平成26年度)

2015年度
(平成27年度)

2016年度
(平成28年度)

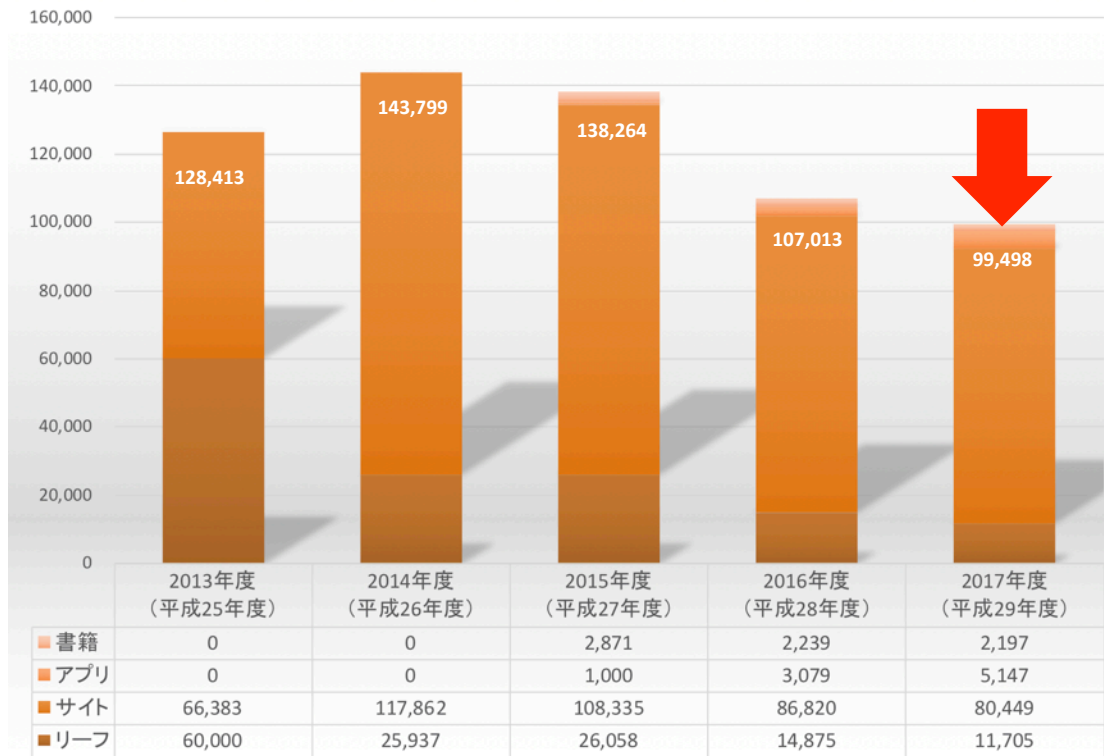
2017年度
(平成29年度)

中期経営計画—重要指標

③認知数

目標：464,560⇒実績：99,498

単年度の目標を設定したものとそうでないものがあり、受講者数に繋がる認知の成果指標の見直しをする必要があります。



〔事業報告〕 教室事業 ①教室運営

2017年度 活動報告

事業目的

母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

2017年度はボールエクササイズ指導士が4名デビューしたため、定期開催の「産後のバランスボール教室」の開催教室数・開催数・受講者数が大幅に増加しました。産後ケア教室卒業生と初マドレボニータの参加者両方向への受講者拡大を担っています。既存のインストラクターにより新規開講もあり、来年度も大きな動きを見せそうです。産後ケア教室・マタニティケア教室の開講数は微増したものの、その規模に伴う受講者数の増加は実現しませんでした。また、その他の単発講座の開催数・受講者数は大幅に減少してしまい、全体の受講者数が前年度を少し割る結果となってしまいました。

開催実績

定期開催数：513回（前年比+133／135%） 受講者数：3,359人（前年比+505／118%）

全開催数：1098回（前年比+30／103%） 受講者数：7,978人（前年比-478／94%）

産後ケア教室 15都道県

344コース（前年比+9コース／103%）／2,478人受講（前年比+2人／100%）／満席率78.1%（前年比+0.7）

マタニティケア教室 2都県

17コース（前年比+2コース／113%）／100人受講（前年比-11人／90%）／満席率52.6%（前年比-11.2）

産後のバランスボール教室 6都道県

152回（前年比+122回／507%）／781人受講（前年比+514人／293%）※満席率はH30年度より計測予定

単発講座 ※産後のバランスボール教室のぞく

585回（-103回／前年比85%）／4,619人受講（前年比-1,250人／79%）

- 産前・産後女性対象
- 産前・産後カップル対象
- 教室卒業生対象
- インストラクター志望者・子育て支援関係者対象 など

関西での講座開催も！
京都市男女共同参画センター
「ウィングス京都」にて4回開催。
（うち2回は「大塚商会ハートフル
基金」により実現）

〔事業報告〕 教室事業 ①教室運営

2017年度 活動報告 (つづき)

■産後ケア教室への導線づくり

産後ケア教室の認知経路は「友人・知人の紹介」が約半数を占めます。しかし、右図でわかるように、それ以外の導線が着実に増えてきています。こうした導線を増やし、太くすることも教室事業部の役割だと認識しています。増えてきた導線の数をもさらに増やし、またそれぞれを太くしていく必要があります。

2018年度 活動計画

■教室満席率を上げるための仕組みづくり

2016年度にマドレボニータの管理システムを一新したことで、お申込み時に入力いただく情報の活用がしやすくなりました。2017年度に初めて行った認知経路と参加目的のインストラクター別集計を定期的な提供、他の項目への展開を予定しています。また教室申込や各種サービスの利用促進のため、SNSでの発信を継続・計画的に行いつつ、申込状況をタイムリーにみて必要な発信もできるよう、メンバー間でサポートしながら実施していきます。

■地域推進プロジェクト

2017年度に続き、都内と関西エリアを中心に事務局スタッフによる自治体への活動紹介・提案活動を進めます。また、インストラクター個人が地元の自治体へのアプローチを行う場合のサポートも行います。

■インストラクターと事務局双方の事務作業の効率化

外からは見えにくい点ですが、事務作業を効率的に行えることは間接的に開講数の増加や受益者に還元できることだと考えます。2017年度に引き続き、自治体バウチャーや請求関連の整備・各種マニュアル整備などを進めます。

■オンライン版踊れるからだづくり超超超基礎スタート！ → www.madrebbonita/onlineodoreru

産後のリハビリ後も、そこから続く人生も、底支えてくれるのは体力！さらに大人になってもチャレンジの機会をとということで、オンライン版の踊りの講座を新規開講します！

2017年度産後ケア教室への導線



〔事業報告〕 教室事業 ②地域推進

行政との取り組み

2017年度 活動報告

自治体の「妊娠期～子育て期までの切れ目ない支援」推進の動きの中でも、「取り組むケア」への自治体での実施はまだ僅かですが、実施されている自治体の継続率は高いです。また他自治体への見学を経て今年度実施された自治体もあります。

■ 東京都北区（継続）

妊婦・産後女性向けの教室を年間45回開催。区内まんべなく20の児童館を巡回実施し、区民の機会の公平性がはかられていることも特筆する点です。

※申込先 ★会場により申し込み先が異なりますのでご注意ください。
 母子健康支援センター 電話03-3903-7555
 赤羽健康支援センター 電話03-3903-6481
 池袋川健美支援センター 電話03-3915-0184

区	期	日	会場	担当	申込先
4月	10日	水	10歳以上の児童館	池袋1区、池袋15区	池袋1区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	14日	木	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	18日	月	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
5月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	11日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	20日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	21日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	22日	月	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
6月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	11日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	18日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
7月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
8月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	20日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	26日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
9月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
10月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
11月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
12月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
平成28年1月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
2月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
3月	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	10日	水	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	17日	日	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	24日	金	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区
	25日	土	池袋10歳以上の児童館	池袋10区、池袋15区	池袋10区

※実施回数は各区の児童館の状況により異なります。また、天候等により実施が中止となる場合があります。

◀北区さまで作成・配布されている年間予定表は開催日がざっしり！

■ 東京都台東区（新規）

区内児童館にて産後女性向け講座年3回を実施。開始早々毎回キャンセル待ちが出る人気講座に。



■ 昨年度より継続

神奈川県横浜市／墨田区／文京区／北区(東京都)／厚岸町(北海道)／信濃町(長野県)など

2018年度 活動計画

既存の行政との協働を誠実に遂行しつつ、新プロジェクト「これからの両親学級」で得られていく知見やつながりも活かした新しい形の協働の形も検討していきます。

これからの両親学級

2018年度 活動計画

産後の女性が心身ともに健やかになり、持っている力を発揮する社会には、すべての家族に産後ケアの知識を持っていただくことが必須となります。しかし、以下のような現状から、依然として産後ケアの必要性を知らずに出産を迎え、産後の三大危機（産後うつ・乳児虐待・夫婦の不和）を引き起こすリスクを抱えるカップルがいます。そこで、産前に産後の準備をする必要性を直接、当事者であるカップルに伝えたいと考えました。

■ 東京都の産後ケア事業の現状

近年「産後うつ」が母子保健の課題として認識され、東京都でも産後6-8週間の休養をサポートする「産後ケア事業」に着手しています。ですが、産後ケアの必要性が都民に伝わっておらず、サービスが十分に届いていないという問題があります。

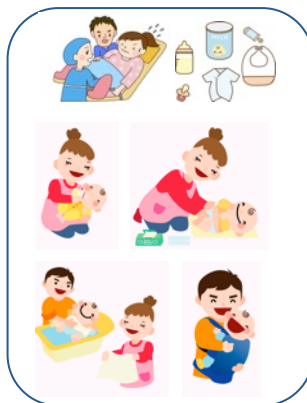
3 妊娠前から子育て期にわたるまでの支援の実施の有無

実施事業	各セン ターに おける 実施率 の割合	実 施 率	（都 民） 実施率
妊娠に関する普及啓発	61	60%	23 82%
妊娠の届出・母子健康手帳の交付	79	77%	28 100%
自前学級・両親学級	65	64%	27 96%
妊婦健診	18	18%	24 86%
産婦健診	9	9%	10 36%
妊婦訪問	59	58%	24 86%
産婦訪問	63	62%	23 82%
産後ケアの届出	60	59%	24 86%
新生児訪問	65	64%	25 89%
未熟児訪問	65	64%	22 79%
乳幼児健診	64	63%	28 100%
予防接種	19	19%	27 96%
産前・産後サポート事業	16	16%	22 82%
産後ケア事業	5	5%	7 25%
乳児家庭全戸訪問事業	64	63%	28 100%
育児支援訪問事業	14	14%	22 79%
子育て短期支援事業	6	6%	20 71%
地域子育て支援拠点事業	13	13%	20 71%
一時保育事業	7	7%	20 71%
育児保育事業	1	1%	18 64%
ファミリー・サポート・センター事業	7	7%	22 79%
その他の事業	28	27%	8 29%

産後ケア事業
実施率5%

■ 両親学級の現状

産婦が適切なタイミングで心身を十分に回復させ、カップルで健康に子育てをスタートするには、一般的な両親学級で教えている「出産準備」や「赤ちゃんのお世話」の予習だけでは足りません。



一般的な両親学級で教えて
いること



必要だけれど教えられて
ないこと

東京都 平成28年度母子保健運営協議会資料より
資料4-3 子育て世代包括支援センターについて（その3）

これからの両親学級

2018年度 活動計画（つづき）

2018年度からはその一歩となるプロジェクトを立ち上げます。

「これからの両親学級プロジェクト」です。このプロジェクトは東京都福祉保健財団により、3年間で約1,000万円の助成をいただいて実施します。対象となる地域は東京都内限定となります。

■ 「出産後の十分な休養」と「体力回復のためのリハビリ」そのための準備の知識啓発

- 出産後の女性の心と体の変化や出産を機に変化する夫婦の関係性を知り、備える
- 産後の三大危機（産後うつ、乳児虐待、夫婦の不和）について知り、予防する
- 産後の準備を母親が抱え込むのではなく夫婦が協力して行う方法を学ぶ



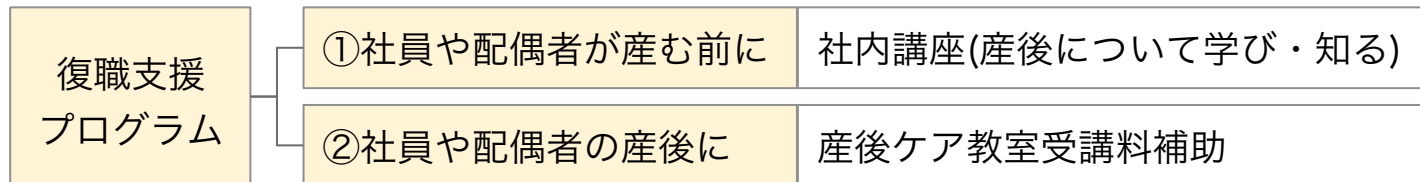
■ 両親学級の場合だけで終わらせない出産準備を促す産後の啓発ツールの配布

- 出産後の準備に必要な事項を記載したリーフレットの配布
- 夫婦で妊娠中から、妊娠・出産・産後の知識を得て、準備に取り組めるアプリの配布
- 産後女性の心と体の実態調査を掲載した冊子（日本語版、英語版）の配布



公式サイト内紹介ページ
<https://goo.gl/UgfcxE>
 ご紹介に活用お願いします！

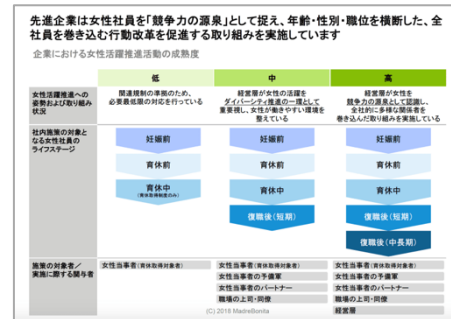
「企業を産後ケア普及のインフラにする」ために「復職支援プログラム」の提案・提供を推進



■ 企業を通じての産後ケア教室受講者数が拡大(28年度との比較)

社員の受講料補助制度 導入法人数 5社→5社(1.0倍)	提携や受講料補助での産後ケア 教室(4回コース)受講者数 55名→116名(2.1倍)	企業での座学型講座 受講者数 239名→168名(0.7倍)
------------------------------------	---	--------------------------------------

■ デロイトトーマツコンサルティング社「ソーシャル・イノベーション・パイオニア・プログラム」による支援
 専属チームによる約4ヶ月間の無償のコンサルティングを通じ、「復職支援プログラム」のマーケティング戦略立案を支援を受けました。導入の障壁の究明とそれを踏まえたアプローチ戦略を提案いただき、企業向け提案資料(右図)をはじめとした営業アプローチが一新しました。



〔事業報告〕 養成事業

インストラクターデビュー実績

2017年11月～2018年12月にかけて、ボールエクササイズ指導士4名、産後セルフケアインストラクター6名が誕生しました。産後セルフケアインストラクター6名のうち3名はボールエクササイズ指導士からの昇格のため、純増は7名です。

2017年度に実施した産後セルフケアインストラクター養成コース11期については次ページの活動報告をご覧ください。

事業目的

親となった人が本来持っている力を発揮できるための
産後ケアプログラム指導者の育成

今川涼子 BEX指導士→産後SCI

2017年11月～

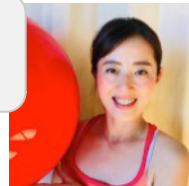
愛知県一宮市、蟹江町
三重県桑名市を中心に活動



小嶋千恵 産後SCI

2018年12月～

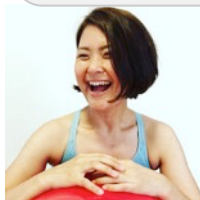
栃木県さくら市を中心に活動



長野奈美 BEX指導士→産後SCI

2017年11月～

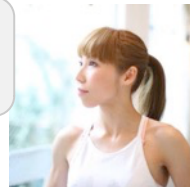
愛知県日進市、名古屋市を
中心に活動



石倉恵美 BEX指導士

2018年5月～

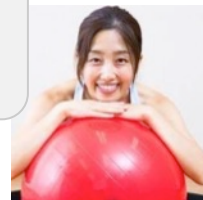
茨城県鹿嶋市を中心に活動



新井和奈 BEX指導士→産後SCI

2017年11月～

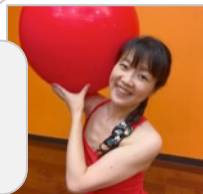
東京都千代田区、世田谷区を
中心に活動



中川奈津子 産後SCI

2018年11月～

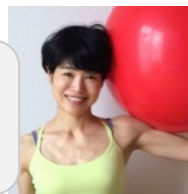
大阪府大阪市を中心に活動



井端梓 産後SCI

2018年12月～

東京都目黒区、
神奈川県川崎市を中心に活動



（事業報告）養成事業

2017年度 活動報告

『産後セルフケアインストラクター養成コース11期』実施

2017年度は産後セルフケアインストラクター養成コース11期を開催しました。養成コース体験講座の動画配信や、養成コースへの認知度や関心度を上げるためにSNSやブログで頻繁に情報を発信したことも功を奏し、応募は9名。最終的に6名を産後セルフケアインストラクターとしてデビューさせることができました。1回の養成コースで6名のインストラクターを輩出したのは過去最高の結果です。

2018年度 活動計画

■ マドレキャラバン 未来のインストラクター発掘の旅

まだ教室がない地域にインストラクターを育てることを目指し、昨年実施したクラウドファンディングの資金で全国を巡り、産後ケア体験講座や代表吉岡の講演会などの種まき活動を行っています。

■ 2019インストラクター養成コース

2019年はボールエクササイズ指導士の養成を行います。Webサイトもリニューアルし、より多くの方にマドレボニータのインストラクターについて知っていただけるよう情報発信を行っています。養成コースは5月開講予定です。



▲zoomで開催した11期生認定式の様子

◀今期よりリニューアルした認定証



▲吉岡マコ講演会チラシ



▲養成コース新Webサイト

（事業報告）研究開発事業

①NECワーキングマザーサロン

2017年度 活動報告

「母となってはたらく」がテーマの、対話を中心としたワークショップ「NECワーキングマザーサロン」（以下サロン）を、市民の力で各地域に展開する活動です。NEC様の協賛を得て、毎年4月～翌年3月の1年単位で実施しており、第10期目を迎えました。 ※マドレボニータ年度の下期～翌年度上期での活動となります。

第10期は、全国から総勢137名がボランティア・スタッフとして参画し（過去最高数！）、地域ごとに16の運営チームに分かれてサロンを開催。2018年12月までに全103回開催し、のべ652名の方にご参加いただきました。

開催回数	103回	開催地域：9都道府県、41区市町 北海道（札幌市・北見市・津別町）、茨城県（つくば市） 栃木県（宇都宮市・さくら市）、埼玉県（さいたま市・川口市・和光市・戸田市）、千葉県（流山市）、 東京都（千代田・中央・港・新宿・文京・台東・墨田・江東・品川・目黒・大田・世田谷・渋谷・中野・杉並・豊島・北・荒川・練馬・足立・葛飾・江戸川区・武蔵野市・小平市・西東京市）、 神奈川県（横浜市・川崎市）、愛知県（名古屋市・豊田市） 島根県（松江市）
参加者数 （のべ）	652名	
プロジェクト メンバー数	137名	サロン運営チーム：進行役16名、運営メンバー98名 全体サポートチーム：アンケート5名、広報6名、 研修伴走・対話6名、コミュニティ7名、本部7名 ※兼任を含む

本プロジェクトは、第10期をもって終了することとなりました。10年間、参加・参画・応援を本当にありがとうございました！

事業目的

産後女性の力の発揮につながる対話の場をつくり、担い手を育てる



▲進行役研修公開講座にて（5月） ▼サロンでのひとこま



2018年度 活動計画

10年間の歩みを振り返り、この活動が生み出してきた価値を形にする新たな取り組みに着手しています。周年イベント「MadreBonitaDAY2019」、機関誌『マドレジャーナル』の特集などで取り上げていきます。また、このプロジェクトで培ってきた知見やノウハウを研修というかたちにして、対話の場をつくりたい方への支援を行っていきます。

〔事業報告〕 研究開発事業

③マドレストア（オンラインショップ）

2017年度 活動報告

■書籍

- ・『産後白書』売上増！：企業の復職支援プログラムでの大口購入（230冊）や、講座や会員イベントでの配布資料としてのまとめ買い購入が影響しました。
- ・その他の書籍は販売目標値に達成せず。告知やキャンペーンでの課題を改善していきます。

■グッズ

- ・初の「トートバッグ」は、正会員の茂木さゆりさんと一緒に企画。75個制作し、1週間で完売しました！
- ・チャリティブランド「JAMMIN」とのコラボ商品を、法人化10周年に合わせて企画。デザイン検討でかなりこだわった効果もあり、売上は目標の3.5倍に達しました。

書籍名・商品名	販売数	
	目標	実績
『産後白書』シリーズ	600冊	855冊↑
『産褥記3』	100冊	64冊↓
『ワーキングマザーの教科書』	100冊	52冊↓
『マドレジャーナル』 （バックナンバー）	150冊	107冊↓
オリジナルミニトートバッグ	75個	75個→

事業目的

- ・団体に参画する方々を通して、産前産後の女性に書籍を届ける
- ・団体への愛着をはぐくむ商品の企画販売



- ▲「JAMMIN」コラボ商品ファッションショー（法人化10周年イベントにて）
- ▼初企画のトートバッグ。好評につき2018年1月に予約注文販売します！



2018年度 活動計画

引き続き「産後」への認知を広め、知見を深めるための書籍販売、および団体への愛着を育む商品開発・販売に取り組みます。
（トートバッグ、Tシャツの企画制作、書籍セット販売など）

〔事業報告〕 研究開発事業

④産後ケアバトン+（プラス）プロジェクト

Googleインパクトチャレンジ WomenWill賞受賞企画

■ 会員と寄付のクレジットカード決済移行

2019年3月までの完全移行を目指し、ご案内を実施しています。会員、応援団のみなさまのご協力お願いいたします。

■ アプリ「ファミリースタート」バージョンアップ案策定

利用状況を分析、アプリからの通知や「やること」をより使いやすくする案を策定しました。次年度に順次バージョンアップ予定です。

■ アプリ「ファミリースタート」Webサイト刷新

Google広告によるアプリの利用促進が軌道に乗り、ランディングページであるWebサイトの改善も実施しました。

■ アプリ「ファミリースタート」の利用促進

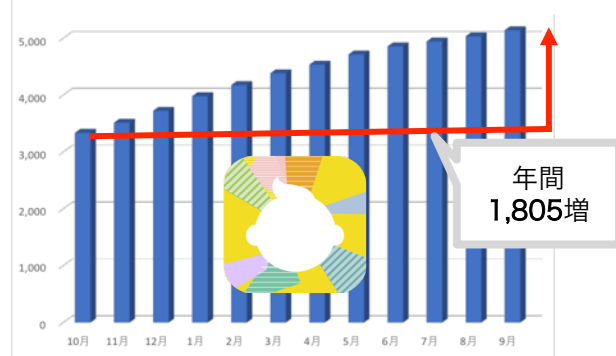
2017年度後半はスマートフォンアプリ「ファミリースタート」の利用促進を目標に、「Instagram」や「Googleアドワーズ」による妊娠中のカップルへの認知促進に取り組んできました。

年間で1,805ユーザー増えて5,141ユーザーとなっています。2,800増やすのが目標でしたので、1,000弱追いついていない状況です。次年度は、「これからの両親学級プロジェクト」という新たな取り組みを通じてアプリの利用を増やし、ひいては「産後のリハビリ」に取り組むことができるような導線を仕込んでいく一年になります。

事業目的 産後女性が本来もっている力の発揮に向けた産後ケアの認知を広める、知見を深める、発揮のためのプラットフォームをつくる



2018年9月末時点：5,141ユーザー



（事業報告） 会員事業

会員数（2018年9月末時点）

正会員145名 賛助会員134名 法人会員3社

2017年度 活動報告

- 10周年記念企画『Madre EXPO 2008-2018』実施
全国にて様々な企画が開催されました（右記一覧参照）。
- 2016年度年次報告書・会報「マドレ通信」18号発行
初のカラー印刷で発行しました。
- 会員向けメールレター発行（月1回）



事業目的

ミッションとビジョンの実現に向け、ともに考え、行動する参画者を増やす

『Madre EXPO 2008-2018』参加企画一覧

- 2018年1月20日（中島佐知子さん、白石あすかさん主催）
『マタニティエクササイズ&フォトセッション』@東京都杉並区
- 2018年2月1日（一般社団法人WITHs 荒木智子さん主催）
『産後うつ・産後うつ未満の実態と対策を考える』@兵庫県・神戸市
- 2018年2月3日（マドレボニータ栃木主催）
『みんなに必要な新しい仕事 〜社会起業家 吉岡マコさん講演&トークセッションのつどい』@栃木県・宇都宮市
- 2018年2月23日・24日（キタカン☆ボニータ主催）
『北区子育てメッセ』出展@東京都・北区
- 2018年3月30日（山本裕子さん・記念写真家 白川まゆみさん主催）
『「母となった私をのこす」ポートレート撮影会』@愛知県・名古屋市
- 2018年4月7日（マドレ城南正会員の会主催）
『2018春 マドレ城南ピクニック』@東京都・品川区
- 2018年6月16日（ワーキングマザーサロン豊島/キタカン☆ボニータ主催）
『エポック10フェスタ』出展/ カップルのための産前産後セルフケア体験講座開催
@東京都・豊島区
- 2018年7月1日・29日（マドレボニータ東海TOMOS主催）
『1）親向け講座「子どもに伝えたい！性と健康の科学」』@愛知県・名古屋市
『2）親子向け講座「親子で語ろう！性と健康～実践編～」』@愛知県・名古屋市
- 2018年9月9日（ワーキングマザーサロン豊島/キタカン☆ボニータ主催）
『気持ちの良い関係を築くための『聴く』実践講座』@東京都・豊島区

2018年度 活動計画

NPO法人化10周年を迎え、今年度はあらためて会員制度の見直しを図り、会員の皆さまの力をさらに持ち寄り発揮していただけるコミュニティを目指します。

寄付総額 4,144,511円

2017年度 活動報告

2017年11月の認定NPO法人化へのご祝儀寄付や、春に実施したクラウドファンディング、チャリティブランド「JAMMIN」のコラボ商品販売などで単発寄付を多くの方からいただき、2017年度の寄付総額は予算を大幅に上回りました。また継続寄付者数の増加を目的に、トークイベント「マドレラウンジ」を新たに開始しました。

■ 企業からのご寄付

- ・ ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 様
- ・ MS&ADゆにぞんスマイルクラブ 様

よりご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。



▲クラウドファンディング



▲マドレラウンジ第一回の様子

■ マドレ基金寄付ルートの内訳

内訳	金額	構成比
クラウドファンディング	1,751,000 円	42.2%
マドレ応援団	783,000 円	18.9%
個人単発寄付	689,692 円	16.6%
JAMMIN	436,620 円	10.5%
企業寄付	161,250 円	3.9%
チャリボン	151,947 円	3.7%
チャリティ講座・イベント	122,782 円	3.0%
産後ケアチケット未使用分	32,320 円	0.8%
かざして募金	15,900 円	0.4%
合計	4,144,511 円	

※西友様からの「マドレ基金」への助成、及びGoogleインパクトチャレンジ助成、情報労連様の「愛の基金」助成は「助成金」のため上記金額には含みません。

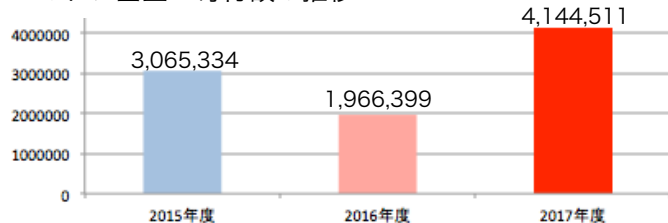
※クラウドファンディング（Readyfor）の寄付額2,519,500円のうち、765,000円は2018年度の養成事業収益として計上し 残りの1,751,000円を2017年度養成事業への寄付として計上しております。

2018年度 活動計画

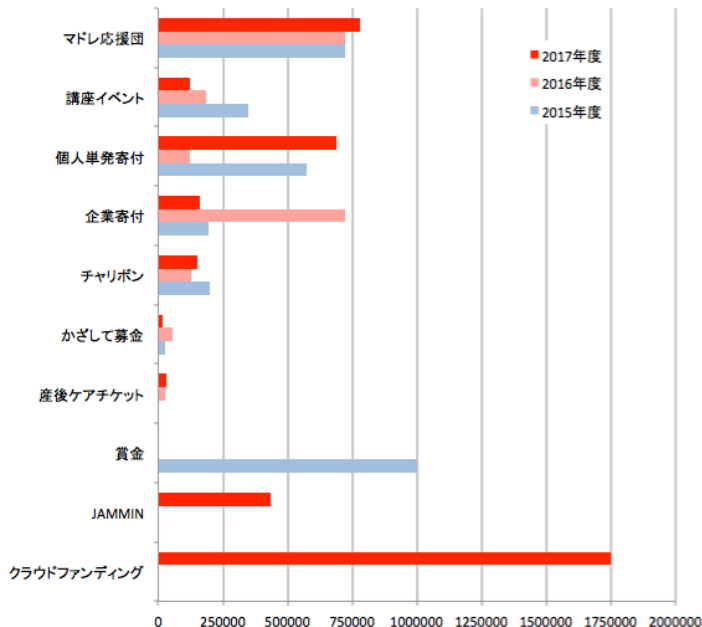
継続寄付「マドレ応援団」のご支援者数拡大を目指し、Webページやメールレターの改良や、ご支援者とのコミュニケーション強化に努めます。企業からのご寄付の機会も増やしていけるよう、会員・マドレ応援団の皆さまにも引き続きご協力をお願いいたします。

〔事業報告〕 マドレ基金

■ マドレ基金 寄付額の推移



■ 寄付ルート内訳の推移



今年度の寄付金使途

下記の通り産後ケアの啓発と受益者拡大のために使わせていただきました。各事業の運営にあたっては、みなさまからのご寄付が大きな支えとなっております。今年度も、養成コースの開催、今まで産後ケア教室がない地域への開拓などに取り組んでまいります。ぜひ引き続きご支援をお願い申し上げます。



■ 教室事業 ¥2,393,511

- 産後ケアバトン制度の認知促進活動
- 教室がない地域での講座開催
- 啓発リーフの普及活動
- 法人向け復職支援プログラムの普及活動
- 自治体向け提案活動 など

■ 養成事業 ¥1,751,000

- 産後セルフケアインストラクター11期養成コース開催

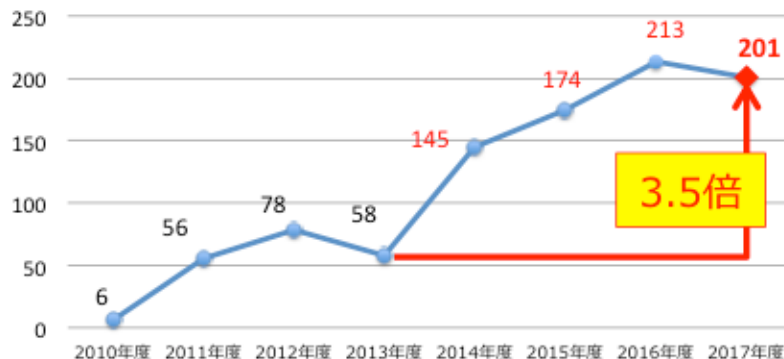
〔事業報告〕 マドレ基金

産後ケアバトン制度

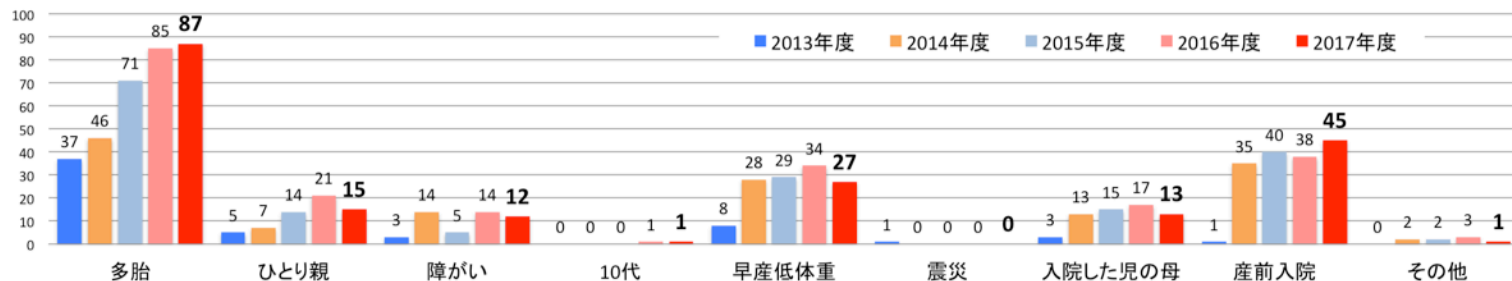
産後ケア教室受講料補助
年間支援組数 201組
(うち介助ボランティアあり 71組)
累計支援組数 931組

年間支援組数は2年連続200組を超えました。
受講者に占める制度利用者の割合は28年度8.1%、
8月は過去最高の13.5%に→年間10%を目指していきます。

■ 年度別支援組数の推移



■ 事由別利用組数 (2013-2017年度比較)



期間中、合同会社西友さま「社会貢献活動助成プログラム」の一環として「産後ケアバトン制度」への助成をいただきました。

2018年度 活動計画

2019年1月～12月の西友さまからの継続助成が決定しており、月平均17組(うち介助あり6-7組)の支援を目標に運営してまいります。2020年1月以降の運営資金は目処がたっていないため、制度運営と並行し、同規模の活動継続に必要な資金確保のファンドレイジングを行います。

（事業報告）マドレ基金

産後ケアバトン制度ご利用者の声

産後ケアバトン制度を利用させていただき、本当にありがとうございました。3歳の兄と6か月の双子を育てていますが、毎日私がどんな顔をして子育てをしているか鏡で見る暇也没有せん。今回鏡越しで自分の顔と向き合うだけでも、わたしには価値のあることでした。とにかく、自分のために一生懸命体を動かすことは、気持ち良かったです！教室のときのように、笑いながら、子育てをできる時間が増やせたらと思います。この教室に不安なく参加させていただけたのは、産後ケアバトン制度、サポートしてくださったボランティアの方々のおかげです。本当にありがとうございました！

（2018年5月 花小金井教室参加 F.Fさま【多胎児の母】）

出産にトラブルがあった方は、みなさんが少なからず自分を責めていて、負の気持ちを背負っています。私も参加するまでは出産トラブルがあったことは隠してしまっていました。問題なく元気な子を産んだ人たちを見ると後ろめたい気持ちになっていました。

ですが、こちらに参加し、こうやって応援をしてくれる方がいる場所なら言ってもいいのかも、と思えるようになりました。

そこから、一気に私の世界が開けた気がします。

昔の私に、遠慮せずに子育てを楽しんでいいんだよ！と言ってあげたい(^-^)\nと思えるようになりました。本当にありがとうございました。

（2016年3月 宇都宮教室参加 S.Kさま【早産・低体重出生児の母】）

※ご参加の2年後にメッセージいただきました



この制度があることを必要な方に知らせるために

産後ケアバトン制度のチラシを配布しております。

■ こちらからダウンロードしていただけます。ご紹介したい方にぜひお渡しください。

<https://goo.gl/jLk8wY>

■ 企業・病院・自治体などでの配布協力先を随時募集しております。ご紹介もお待ちしております。

■ 個人の方でもまとまった数の配布をいただける場合は事務局までご連絡くださいませ。

2020年1月以降の産後ケアバトン制度運用のためのご支援をお願いいたします

産後ケアバトン制度で1組の親子を支援するには約22,000円（介助ありの場合は約44,000円）が必要です。

2020年1月コース以降も制度を継続していくために、法人・個人の方からの助成・寄付をお願いいたします。

・企業のCSR部門さまへの紹介ができる ・お勤め先にNPOなどへの支援制度があり、社員として支援先を推薦できる
⇒ぜひマドレボニータ事務局へご一報ください！

(事業報告) 広報

メディア掲載実績

新聞	6件
テレビ	4件
Web	10件
雑誌	3件
ラジオ	1件
書籍	1件
情報誌	1件



2017年度の会計報告 総評

2017年度はGoogleインパクトチャレンジの助成期間が3月に終了し、財務の観点で非常に踏ん張りどころとなった年でした。

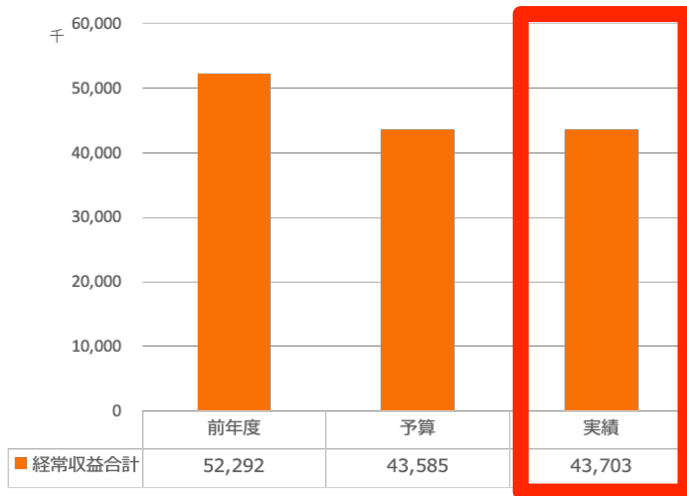
Googleインパクトチャレンジの助成期間終了後も、引き続きGoogleから追加で頂いた「組織基盤強化資金」にて、寄付収益を増やして団体の組織運営を下支えすることとアプリを訴求するための自治体へのアプローチ強化に努めてきました。

特に寄付収益を増やすということは、ご支援いただく方達の信頼と関係性を築くということに根ざしているため、長期に渡る取り組みが必要となり、まだその一步を踏み出したばかりという段階です。

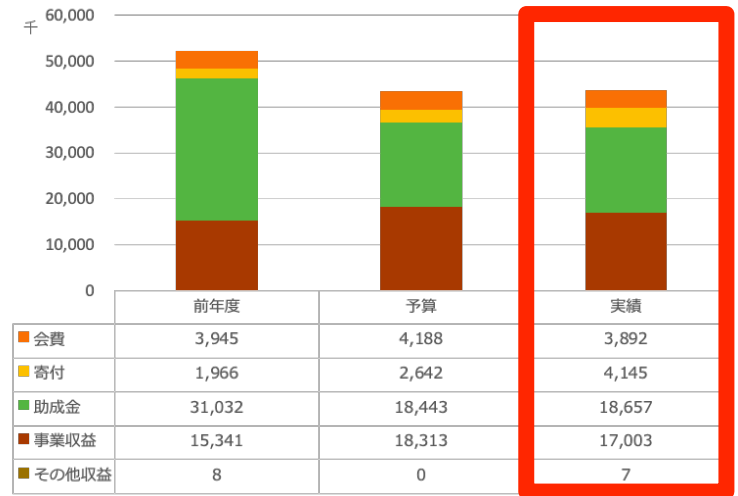
また、現預金の残高に関する懸念も残り、早急に手を打つ必要があります。

(会計報告) 財務状況推移

収益の前年比、予算、実績



収益の前年比、予算、実績（内訳）



収益は、ほぼ予算通り。前年に対して2割減となりました。

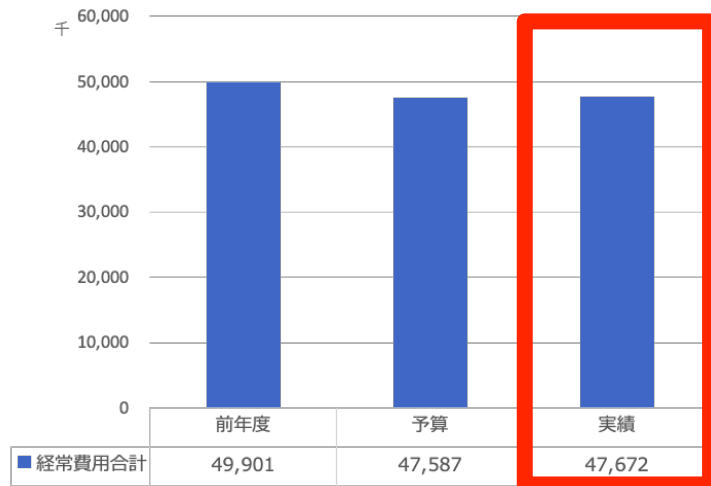
助成金が前年比4割減のため、寄付を前年度の1.3倍、事業費を1.2倍することで支えるという計画でしたが、結果はクラウドファンディングにより寄付は前年度の2.1倍、事業費は若干届かず1.1倍となりました。

これは、教室の直営教室、復職支援プログラムの予算未達、研究開発のgooddoのサービス終了、マドレストアの書籍販売の不振によるものです。この状況から、事業収益は収益構造自体を大きく変えることが必要となっています。

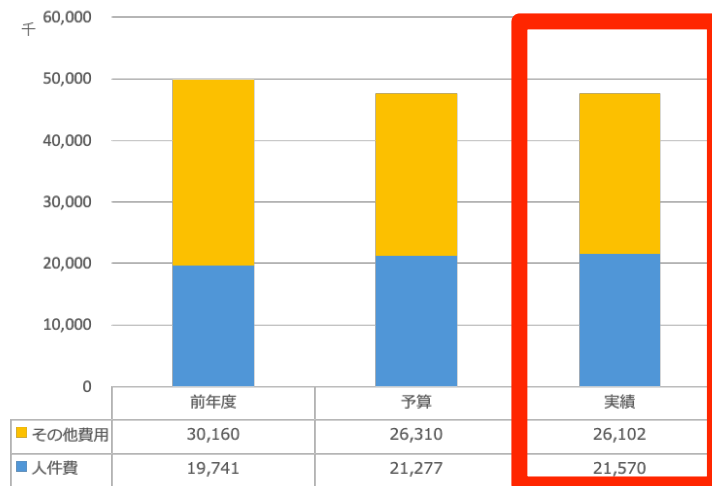
寄付については今年度限りの単発ということで、「マドレ応援団」による継続的な寄付を増やすことでの下支えが必要で次年度は重点的に強化していく計画です。

〔会計報告〕 財務状況推移

費用の前年比、予算、実績



費用の前年比、予算、実績（内訳）



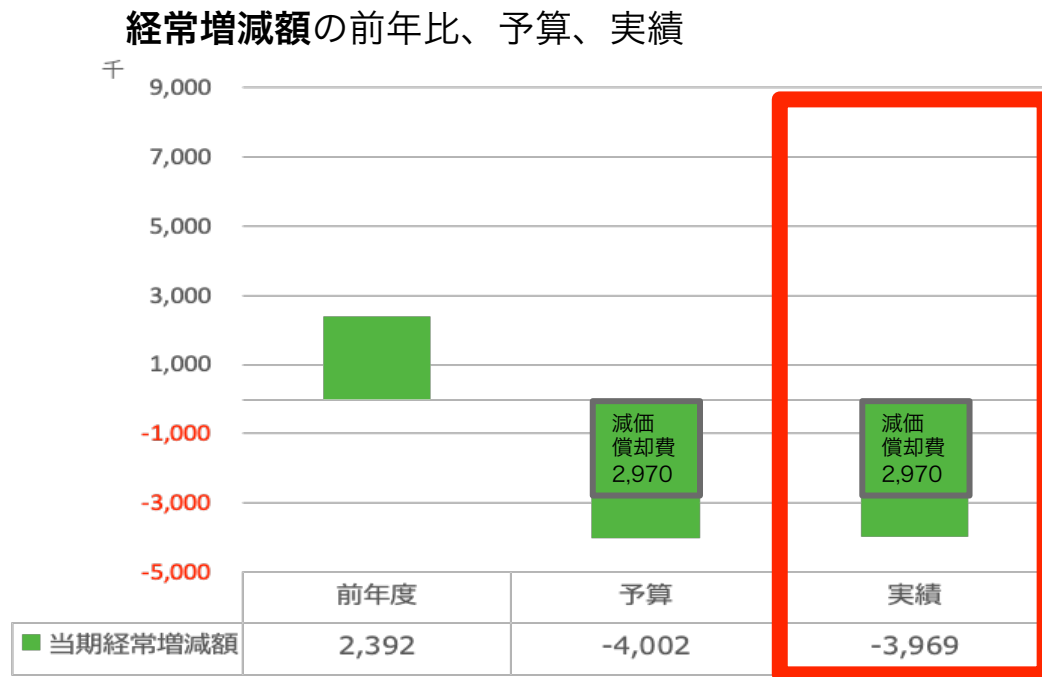
費用は、若干の上振れ。

特に人件費は計画になかった施策が追加になったことなどにより上振れました。

費用だけでなく、労務上の影響を加味して、計画策定時になかった施策が入った場合、

他の施策の中止もしくは停止の判断と、毎月の稼働状況の把握と管理、生産性の向上に取り組む必要があります。

〔会計報告〕 財務状況推移



予算時点で、アプリの減価償却費分（実際にキャッシュが出て行くのではないものです）が-297万円、それに加えて-100万円、合計397万円のマイナスの計画でした。

予算策定当初は、クラウドファンディングを実施することで収益予算にさらに100万円プラスし、経常増減額を減価償却費分マイナスとする想定でしたが、ほぼ予算通りのマイナス額となりました。

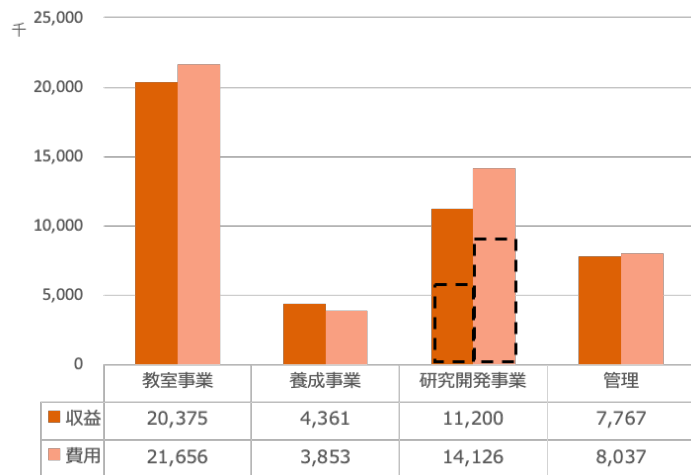
今年度の予算と実績を振り返り、予算に対する考え方を見直し、2018年度は予算時点からマイナスにすることはやめることにしました。

事業別収益と費用の実績

各事業の収益には、事業収益の他に会費・寄付・助成金が配分されています。

教室事業は50.53%、養成事業は59.85%、研究開発事業は36.59%が事業費で、残りが会費や寄付です。

各事業でさらに事業収益の割合を増やしていく必要があります。



Googleインパクトチャレンジ助成金

■教室事業

課題は「各事業の収益率の低さ」と「売上に直結しないが活動に必要な人的業務が多い」点です。

そのため(1)人的業務の効率化 (2)収益の観点からの事業の見直し (3)収益率の高い事業への注力に取り組んでまいります。

■養成認定事業

養成部門の収益増と認定部門の費用削減が課題です。次年度は養成コース以外での収入を得るための商品開発を行い、認定部門の実施事業を見直し、人件費の削減に取り組めます。

■研究開発事業

オンラインストアの書籍売上が伸び悩みました。キャンペーンや告知での課題改善に取り組めます。

■管理

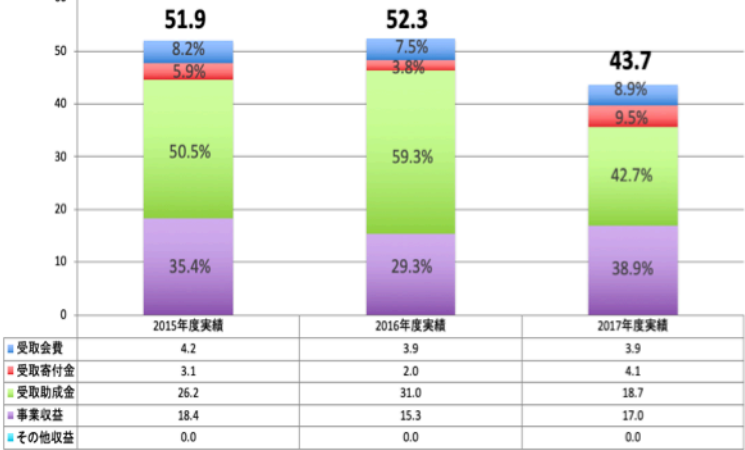
決済システムの移行やクラウドファンディング実施に伴い、関連費用が増加しました。次年度は(1)継続的な支援者の拡大(2)会費・寄付システムの完全移行(3)業務見直しによる固定費の削減に取り組んでまいります。

参考）第1次 中期経営計画期間の実績

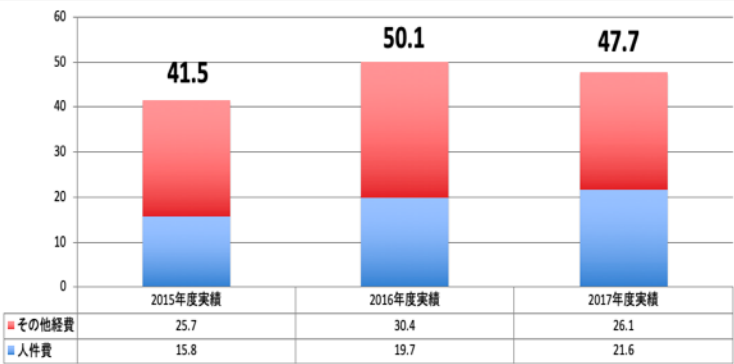
収益・費用・経常増減額・現預金残高の推移

単位：千円

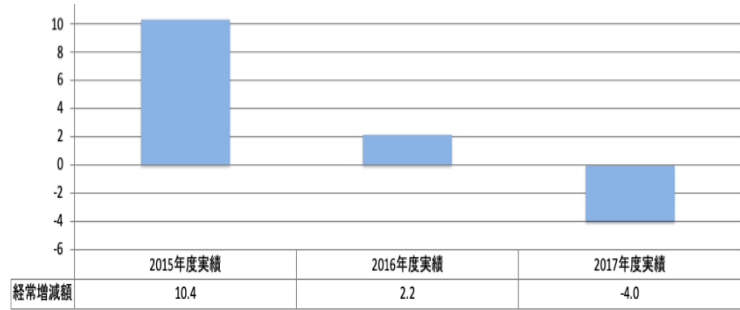
収益



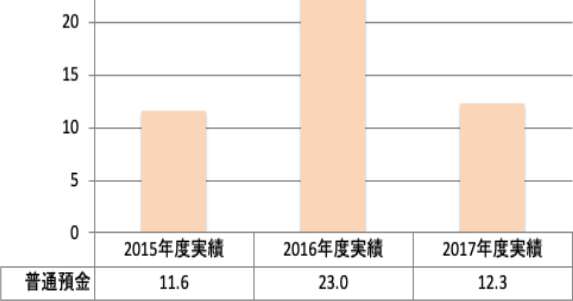
費用



経増減額

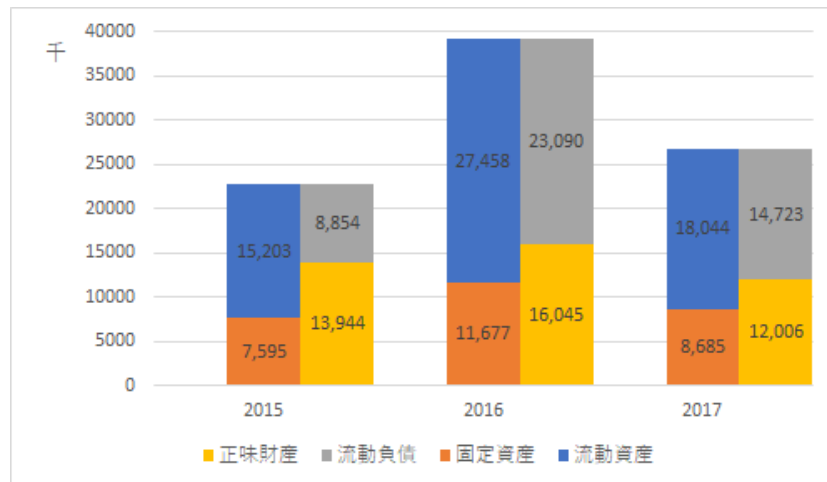


現預金残高



参考) 第1次 中期経営計画期間の実績

第1次 中期経営計画期間 貸借対照表(B/S)



■ 解説

B/S「貸借対照表」はある一定時点での財政状態を表す財務諸表です。

借方(表の左側)に「資産(青とオレンジ)」、貸方(表の右側)に「負債(灰色)」、資産と負債のその差額として「正味財産(黄色)」を表示しています。

貸方(表の右側)は「どのようにお金を集めてきたか」で、借方(表の左側)はそれを「何に投資しているか」です。

■ 負債(灰色)「どのようにお金を集めてきたか」

2017年度の流動負債のうち、66.66%が前受金で内訳は西友さんによる助成金、Googleさんによる組織基盤強化資金が主なものです。

■ 資産(青とオレンジ)「何に投資しているか」

2017年度の流動資産のうち、8.12%が書籍の在庫です。

占める割合は少ないですが、書籍に占める売上原価の金額で回転率を見ると、在庫が滞留している状況です。そのため、積極的に売っていく必要があります。

また、2017年度の固定資産のうち、99.85%がソフトウェア資産で、今後4年間で約869万円を減価償却していきます。

ご寄付のお願い



Photo by Junko Kimura-Matsumoto

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。

インストラクターの養成、産後ケアバトン制度の運営、そして企業や行政への働きかけや提携など、私たちは産後ケアをより多くの家族に届けるために、さまざまな取り組みを行っています。これらの活動を継続し、産後ケアがすべての家族に届けられる社会を作るためには、皆さまのお力が必要です。ぜひ、ご支援をお願いいたします。

マドレボニータは認定NPO法人です。寄付された方は、確定申告により寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

※対象:単発寄付、継続寄付（マドレ応援団）、賛助会員費

- ・所得税減税のほか、自治体によって住民税が減税となる場合もあり最大50%の減税となります。
- ・相続財産寄付・遺贈寄付は非課税となります。
- ・法人の場合、法人税を軽減させる「寄付金損金算入枠」が3-5倍になります。また、一般枠と特別枠の合計額まで損金にできます。

ご不明点やご質問はマドレボニータ事務局までお問い合わせください。（info@madrebonita.com）

■ マドレ応援団（継続寄付）

- ・クレジットカードで毎月一定額をご寄付いただく仕組みです。
- ・毎月のメールレター、会報、年次報告書、限定Facebookグループで活動情報を随時ご報告。
- ・右のQRコードまたは以下のWebサイトよりお申し込みください。

<https://www.madrebonita.com/donate-monthly>



■ いつでも好きな額で（単発寄付）

- ・銀行振込

ゆうちょ銀行 10190 37231

(他行からのお振込は 〇一八 店（ゼロイチハチ店）

普通 0003723)

もしくは

三井住友銀行 永福町支店 普通 7231754

口座名義 特定非営利活動法人マドレボニータ

- ・クレジットカードの方は右のQRコードまたは以下のWebサイトよりお申し込みください。

<https://www.madrebonita.com/donation-offers>





発行人 認定特定非営利活動(認定NPO)法人 マドレボニータ

住 所 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-15-9 シルク恵比寿403

公式サイト <http://www.madrebbonita.com>

メール info@madrebbonita.com (事務局)